会議録

会議の名称	令和８年度第４回子ども・若者審議会「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証専門部会
開催日時	令和８年10月８日（木曜日）午前９時30分から午前11時30分まで
開催場所	田無庁舎５階503会議室
出席者	委員：小野部会長、小林委員、島崎委員、中西委員、辻委員 事務局：遠藤子ども若者部長、菱川子ども若者応援課長、越川子ども若者応援課子ども若者計画係長、須藤子ども若者応援課子ども若者計画係主任、園田子ども若者応援課子ども若者計画係主事、佐々木子ども若者応援課子ども若者計画係主事、吉尾子ども若者応援課子ども若者計画係主事
議題	１　報　告 （1）ワイワイトークの今後の活動内容について （2）西東京市若者会議の今後の活動内容について ２　審　議 （1）子どもアンケート集計結果及び今後の方向性について （2）第３期西東京市子ども・若者ワイワイプラン令和７年度取組実績について ・重点的な取組②の評価について ・重点的な取組①及び③～⑦の評価について （3）評価・検証の仕組みについて ・評価・検証の仕組み（案）について ・次年度に向けての確認事項について
会議資料の名称	資料１　令和８年度ワイワイトーク　体験活動（美化活動）の作戦会議企画案 資料２　ワイワイトーク体験活動のチラシ 資料３　若者会議の経過と今後について 資料４　令和８年度西東京市子どもアンケート集計結果 資料５　重点的な取組②のコメントについての委員意見 資料６　第３期西東京市子ども・若者ワイワイプラン令和７年度取組実績（重点②） 資料７　「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証の仕組み（案） 資料８　第２回子ども・若者審議会からの意見 資料９　「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証について 資料10　「子ども・若者の権利の観点」から評価・検証するテーマ（施策・事業）等について
記録方法	□全文記録　■発言者の発言内容ごとの要点記録　□会議内容の要点記録

会議内容

１　報告

(1)ワイワイトークの今後の活動内容について

事務局から資料１、２に沿って説明

○辻委員：

実際に子どもたちが外に出て動くのが１月23日で、何をするかというのは作戦会議で決めると思うが、例えばゴミを実際に拾ってみようという意見が出たとして、事務局は田無駅周辺のゴミの量は把握しているか。

○事務局：
作戦会議に資源循環推進課にも来てもらい、最新の情報を提示してもらおうと思っている。

○辻委員：
以前、ゴミ拾いに中学校の生徒と参加していたが、朝から市から委託されているシルバー人材センターの方々が拾っているため、意外とゴミがない。線路沿いや線路沿いの草むらにたくさんあったが、柵があって拾えない。そのため、道にはほとんどゴミはないと思う。

○小野部会長：
ワイワイトークの時に資源循環推進課の方が、ペデストリアンデッキに煙草のポイ捨てが結構多いと言っていた。ゴミの状況を確認しておく必要がある。事務局の方でも確認しておいた方がよいと思う。
申込者の年齢層は小学生と中学生どちらが多いか。

○事務局：
小学生がほとんどで、中学生は２名である。

○小野部会長
10月12日まで参加者の申込受付を延長しているということは、10月18日の作戦会議は今応募している子どもたちだけで、１月23日だけに出席する子どももいるということか。

○事務局：
作戦会議は10月12日までに応募してくれた子どもだけで、１月23日の活動内容が決まり次第、再度参加者を募集しようと考えている。

○小野部会長：
10月18日も１月23日も、当日は専門部会のメンバーも行ってもいいしどちらでもよいと考えている。中西委員のゼミから大学生が参加してくれると聞いている。

(2)西東京市若者会議の今後の活動内容について
事務局から資料３に沿って説明

○小野部会長：
１月23日（土）の意見交換の時間はまだ決まっていないか。

○事務局：
体験活動と同日に行う予定のため、まだ仮だが午前中に若者の部門をやり、午後に体験活動と子どもたちの意見交換をできたらと考えている。

○小野部会長：
検討中ということで、次回の11月５日の専門部会の時にはワイワイトークの体験活動の作戦会議を報告してもらい、その次の専門部会がある12月17日の時に11月の報告をもらうかたちで進めたい。

２　審　議
(1) 子どもアンケート集計結果及び今後の方向性について
事務局から資料４に沿って説明

○小野部会長：
　市民へ向けてアンケート結果を説明する機会はあるか。

○事務局：
　ホームページには掲載することを検討していたが、場を設けては考えていない。

○小野部会長：
　行政側、あるいは審議会側がこれを使ってよりよい施策にするというのは分かるが、答えてくれた子どもに知らせる機会を設けた方がよいのではないか。せっかく子どもがこれだけ協力してくれたので、学校などで見る機会があるとよい。大変だとは思うがフィードバック用の資料を作っていただきたい。

○小林委員：
　自由記述のところは、匿名であっても子ども同士で誰が書いたか分かってしまうので注意が必要だと考える。

○小野部会長：
　自由記述は公開できないが、結果報告があるとよい。

○辻委員：
　子どもたちは自分がアンケートをしたことも忘れていると思うので、アンケートをしたことに対して目に見える何かがあると、次にアンケートがあった時のモチベーションにもなる。

○小野部会長：
　簡単でもよいので市長や市の意見があるとよい。
　もう１つの課題として、高校生の回答が少ない。小さい子どもでも分かるようにしたことで、高校生にとっては簡単すぎたのかもしれない。動画も低学年向けだったと思う。

○辻委員：
　学校にはアンケートの依頼がたくさんくるため、埋もれてしまっている。

○小野部会長：
　どうすれば子どもたちに響くか。

○辻委員：
　数が必要なのであれば、時間を取って子どもたちに回答してもらうしかない。様々な種類のアンケートが様々なところからたくさん届くので、任意だと回答してもらえない。

○小野部会長：
　学校の時間の中でタブレットを使って回答するというのは難しいか。

○辻委員：
　すべてのアンケートを回答するのは不可能だが、選択してお願いするとよいのではないか。

○小野部会長：
　２～３年に１度しかアンケートを取らないので協力してもらえませんかとするのがよいと思う。

○事務局：
　計画の見直しをする際には、アンケート結果をその計画に反映させるというのを示せるので、子どもに目的や成果が分かりやすいのではないかと考えている。今回のようなアンケートだと、最初からここに生かすというのを示すのが難しいため、依頼の説明のときにも難しいものがある。

○小野部会長：
　計画の見直しを５年に１度行うので、見直しの際にはアンケートを必ず行うというふうにするのもよいかもしれない。今回は学校でアンケートのお知らせをしてもらったので、市としてどうしていくかを紙にまとめ、貼らせてもらうとよいと思う。部会からの依頼としてよいか。

○委員一同：
　異議なし。

○小野部会長：
　次回専門部会までにフィードバックの素案を作り、専門部会で審議した上で学校に掲示を依頼することとする。学校がアンケートのカギであるということと、高学年や中学生にどうアピールしていくか。今後のアンケートに活用していただきたい。

○辻委員：
　例えば、様々な課から校長会を通してアンケートが届くが、すべてのアンケートが子どもたち全員分の母数が必要なのか。すべての課から一度集めてもらい、「このアンケートはこの学校の３年生に依頼する」など分けてもらえると負担が減る。子どもたちのモチベーションや現場の回答のパーセンテージが上がるのではないか。

○事務局：
　地域差を見たいというのもあり、市内全域でお願いしている。

○辻委員：
　西東京市の姿勢や子どもたちの意見を吸い上げていこうというのはありがたいし素晴らしい。

○小野部会長：
　数がもう少し集まるとよかった。
　フィードバックは１枚くらいでまとめ、市内の小・中学校や児童館などに配布する。個人が特定されるようなものは入れずにつくるということでお願いしたい。

(2) 第３期西東京市子ども・若者ワイワイプラン令和７年度取組実績について
　事務局から資料５、６に沿って説明

○小野部会長：
　資料６について、重点的な取組②は事前に回答してもらった部会員の意見を集約したが、重点的な取組①と③～⑦も専門部会からのコメントを入れる必要がある。誰がどこを担当するか決める必要がある。
　では、重点的な取組②について、事前に部会員からもらったコメントの修正について確認したい。子どもの評価・若者の評価というのが一部分かりにくい記載があるので補足したほうがよいなどあるか。また、改善点は広報の工夫だけでよいか。

○島崎委員：
　よかった点と改善点は分かったが、今後への課題や展開は入れなくてよいか。

○小野部会長：
　今後への課題には今後への提案というのが含まれていると思うが、改善点と同じではだめか。改善点という言葉がよくないか。子どもたちから出た改善点という言葉をそのまま使っているが、評価できる点や今後の課題の方がよいか。広報の工夫だけではないのではないかと思う。

○事務局：
　全体的に見て評価してもらえる点や今後への課題が他にあれば追加で記載していただきたい。

○小野部会長：
　ワイワイトークと若者会議の報告書から抜粋したものを見てコメントしてしまったが、それ以外にも我々独自の視点というのが必要である。アンケート結果を公表するなどの子どもたちへのフィードバックの視点や、行ったことの結果を共有するというのが弱かったと考えている。ワイワイトークが終わってから、「実はもっと言いたいことがあったのに」というコメントがあった。もしそういったことがあれば、どこに言えばよいか。

○事務局：
　基本的には事業の担当部署に伝えていただくのがよいかと思う。

○小野部会長：
　例えばワイワイトークが終わった後に何か言いたいことを思い出したら、ここに連絡していいんだよというのは渡していたか。

○事務局：
　子ども若者応援課の連絡先は資料等にも記載していたが、終わった後に意見そのものを受付するというような仕組みはつくっていない。

○小野部会長：
　電話はハードルが高い。LINEや二次元コードから匿名で意見が言えるのはほっとルームかと思うが、相談になってしまうのか。自由に意見を言える意見箱のようなものはないか。

○事務局：
　市長への手紙が意見箱にあたると考えている。

○小野部会長：
　例えばここの公園のこれが壊れているといったように、子どもたちは思い出したらすぐに言いたいと思う。

○事務局：
　公園の遊具や道路が壊れているということなどはLINEから通報ができる仕組みがある。

○中西委員：
　子どもたちが何かを言いたいと思ったときにすぐに言えるような仕組みが継続的にあるとよい。

○小野部会長：
　ワイワイトークには参加できなかったが、市には言いたいことがあるという子どももいると思うので、市に意見できる仕組みがあるとよい。
　それでは、ここからは重点的な取組①と③～⑦の専門部会からのコメントについて、分担を決める。それぞれ担当箇所のコメントを指定の日付までに事務局へ送ってほしい。
　また、専門部会からのコメントへの記載だが、ワイワイトークと若者会議に限らず、保育園に行ったことやアンケート調査をしたことなども入れ込むか。また、若者の評価というのは若者会議しかないのでそれだけでよいか。

○事務局：
　ワイワイトークで出た意見とアンケート調査で出た意見が分かるように、分けて形にする。

○小野部会長：
　保育園の先生たちの子どもの意見を聞く姿勢が素晴らしかったので、よかった点に入れてもよいと思う。保育園への訪問やヒアリングを通して、日常生活での子どもたちの意見表明の確保というのを入れていただきたい。
　いつの時点で最終化するか。１月の体験活動から出てくる意見というのは入れ込むのか。最後の審議会が月日で若者会議は１月まで続くと思うがどうするか。

○事務局：
　若者会議については第４回まで終えている。審議会は１月28日が最終のため、それまでにまとめて報告をする。体験活動で出た意見はワークショップで出た意見を中心にまとめる。

○小野部会長：
　何から出てきた子どもの評価なのかが分かった方がよい。いつまでに行った若者会議で出た意見というのを載せた方がよいのではないか。HPには掲載されるのか。

○事務局：
　審議会の資料として掲載される。

○小野部会長：
　特設ページは設けないのか。

○事務局：
　まだ試行の段階で実施には至っていない。全庁的にもう少し議論させていただいてから考える。

○小野部会長：
　市民の方々や子どもへのフィードバックをどうするか議論していく必要がある。

○事務局：
　こういう意見があったということを各課へ伝える際、もう少し丁寧に伝えなければならない。

○小野部会長：
　よかった点は評価できる点に、改善点は今後の課題とし、子ども・若者の意見を伝える仕組みにしてフィードバックする。ほかに何かあるか。
　専門部会からのコメントは令和７年度に行ったことに対する専門部会のコメントなので、令和７年度に行ってよかったこと。若者の評価の改善するとよかったところの（３）に事業への影響

確認とあるが、これに対して私たちは意見しなくてよいか。
　子どもの評価と若者の評価の書き方だが、資料５の１ページ目の（１）に意見番号５番で「子どもから表明された意見として箇条書きのまま、大人なりに理解したものでなく、言葉もそのままの形で記載したら良いと思う」という意見と、（２）に意見番号５番で「若者から表明された意見としてそのままの言葉で箇条書きの記載が良いと思う」という意見をもらっているが、かぎ括弧などに書いた方がよいか。今の状態だと読みにくいか。

○辻委員：
　それほど読みにくくはない。

○小野部会長：
　私もこのままでよいと思う。表現が分かりにくいところや誤字は直すかたちにして、事務局には専門部会からのコメント記載内容を修正いただきたい。
　それでは、ここからは重点的な取組①と③～⑦の専門部会からのコメントについて、分担を決める。それぞれ担当箇所のコメントを指定の日付までに事務局へ送ってほしい。
　１つの取組について２人くらいで回答するのがよいと思うが、いかがか。６項目について６人で回答するため、１人２項目ずつ回答する。希望する項目はあるか。欠席の林委員からは残されたものでよいと聞いている。

　以下のとおり担当を決定。
　重点①子どもの権利を守る仕組みと体制の充実（小野委員、中西委員）
　重点③子ども参画による事業運営の推進（中西委員、林委員）
　重点④まちづくり活動の機会の充実（島崎委員、辻委員）
　重点⑤子ども自身が相談しやすい体制の充実（小林委員、島崎委員）
　重点⑥若者の相談支援体制の充実（小野委員、小林委員）
　重点⑦地域事業等の活性化により子ども・若者参加の推進（辻委員、林委員）

○辻委員：
　報告書を見て、評価できる点と今後の課題の２つをコメントするということで間違いないか。

○島崎委員：
　令和７年度に行った事業についてということは、令和８年度に訪問した保育園は含めないのではないか。

○小野部会長：
　保育園を訪問したのは本年度だが、保育園での意見表明の取組は前計画の時から行っているということであったので含めてよい。重点②の修正版と併せて事務局からメールで送る。質問があれば担当課に問い合わせる。

(3) 評価・検証の仕組みについて
・評価・検証の仕組み（案）について
　事務局から資料７、８に沿って説明

○小野部会長：
　評価・検証の体制づくりについて、どのように子どもの意見を吸い上げていけばよいかというのを議論していくにあたって、資料７と８をベースに提言書をつくっていくということに賛同いただけたらと思うがよいか。

○委員一同：
　意義なし

・次年度に向けての確認事項について
　事務局から資料９～10、参考資料１～３に沿って説明

○小野部会長：
　他の自治体の取組と評価・検証するテーマ（施策・事業）等については次回の審議会にもこの資料を持参いただき、１～３のうちどのような方向性がよいのかを考えてきていただきたい。

○小野部会長：
　令和８年度第４回子ども・若者審議会「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証専門部会を閉会する。

以上